



### 何年もかけて調査した 作品の数々を展示

この作品展示会は「織田朱越翁を顕彰する会」が、少しでも多くの人に織田朱越氏の作品を見て郷土の名工を知ってもらいたいとい

豊中町桑山生まれの彫刻芸術家 織田朱越の功績を埋もれさせてはいけないとの思いで活動する「織田朱越翁を顕彰する会」の皆さん。何年もかけて作品を調査し、郷土の名工が残した作品を後世に残したいと写真集を自费出版しました。  
また、三豊市市民交流センター落成記念として「織田朱越作品展示会」と「織田朱越と三豊」と題した講演会を、4月24日に開催しました。

うことで開催しました。

今回は、会員らが所蔵している茶器や置物、会員が調査した朱越氏の作品を写真におさめた写真パネルなどあわせて60点ほどを展示しました。

また、原鑄造所から借りてきた大久保謙之丞の原型（高さ1・3mの胸像）は庄巻で人々の目を引いていました。どれも貴重な品ばかりで、顕彰する会だからこそ展示できた品々です。

作品の写真パネルを一つずつ確認するように見る人もいれば、精巧に作られた展示作品に見入る人もいて、一様にそのすばらしさに驚いていました。

個人が所有している作品が多いため、なかなか目にする事が出来ない朱越氏の作品を展示したことで、多くの人に織田朱越の存在を知ってもらうきっかけとなりました。

# おだ しゅえつ 織田朱越翁を顕彰する会が 隠れた名工を表舞台に



朱越作「伝かぐや姫」  
写真提供・顕彰する会



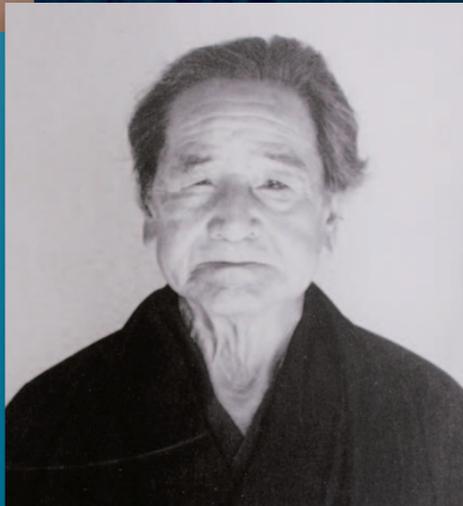
▲会場には約400人が詰めかけました

### 『坂の上の雲』の主人 公も制作

また、講師に坂の上の雲ミュージアム館長松原正毅氏を招いて「秋山好古と秋山真之」「坂の上の雲」の主人公たち」と題した講演会も行われました。

朱越氏は昭和45年『坂の上の雲』の主人公である秋山好古と秋山真之の銅像を製作。遠く松山から製作依頼がくるほど、当時銅像作りにおいて名をはせていたようです。

講演会は立見客が出るほど盛況で、秋山兄弟を通して歴史から何を学ぶべきかを、分かりやすく説明する松原氏の話に参加者は熱心に耳を傾けていました。



### 織田朱越略歴

明治32年（1899）

桑山村（現豊中）に生まれる。岡本焼が盛んなところで育ち、朱越も粘土細工が得意で、小学校の頃から人物像や茶器などを作っては窯で焼いていた。

大正3年（1914）

16歳の時、岡山県の備前焼の窯元に弟子入りする。以後、名古屋の日本陶器会社に入社し茶碗や工芸品の原型制作、大理石の彫刻を手がける。

26歳の時、大阪の彫刻家中村武平氏に師事して10年ほど腕をみがく。

昭和6年（1931）

「太郎やい」像を多度津町桃陵公園に建立。

昭和10年（1935）

故郷の桑山に帰る。大阪から帰った朱越は、住居を山本町辻に移し、原鑄造所の原型師として本格的に銅像づくりを始める。

36歳で独立し銅像の原型制作と焼き物や美術品の制作を始める。

昭和35年（1960）

大久保謙之丞像を琴平公園に建立。

昭和37年（1962）

彫塑「災禍の後」が、香川県美術展覧会で県知事賞を受賞。

昭和45年（1970）

秋山好古・真之像を松山市梅津寺公園に建立。



▲秋山好古像と朱越氏

昭和51年（1976）

山本町文化功労者として表彰される。

昭和57年（1982）

山本町で逝去。



大久保謙之丞像  
香川県立琴平公園（琴平町）  
（昭和35年建立）

写真提供：顕彰する会



秋山好古像  
梅津寺公園（松山市）  
（昭和45年建立）



災禍の後  
原鑄造所蔵  
（昭和37年制作）

香川県  
知事賞  
受賞作品

**至る所に残る朱越作品**

「銅像こそ人間の記録」と精魂を傾けて制作に取り組んだ織田朱越。中西讃や愛媛県などの神社・寺院・公園の銅像を手がけたといわれている朱越の作品は300点を超えると言われています。

県展に4回も入賞するほどの名工でしたが、飾り気がなく名譽も欲せず、銅像づくりに生涯をかけた人でした。



二宮金次郎像  
桑山小学校（豊中町）  
（昭和12年建立）

**美を追求し「伝かぐや姫」を制作**

展示された作品の中でひと際目を引くのが、素焼きの「伝かぐや姫」の像です。

作者である織田朱越氏は豊中町桑山の出身で、桑山地区は古くから焼き物が盛んで家々に窯があり、土管や植木鉢がたくさん作られています。また、養蚕業も盛んで桑がたくさん栽培されていました。



▲「伝かぐや姫」の美しさに魅了されます

「伝かぐや姫」の像は右手に桑の葉を持ち、左手のかごの中には蚕の繭が入っています。郷土への想いが感じられる作品で、まさに朱越氏の心がこもった秀逸といえます。ほかの銅像や仏像など人から頼まれた作品とは違い、自分の憧れや美を追求して作られたものだと思います。

専門家によると「朱越氏の作品は芸術性が豊かで作者の息づかいが伝わってくる、どこに出しても遜色ないすばらしい作品です。粘土でこのような細かいところまで作り上げているところが特にすばらしい。県下の有名な彫刻家と肩を並べるほどで、技術的な器用さでは上をいくかもしれない最高の技術を持っている。郷土出身の芸術家作品として、ぜひ大勢の人にってもらいたい作品」と高い評価を得ています。

また「このようすばらしい芸術家が郷土にいたことをもつとPRするべきで、若い人にも語り継いでほしい。そのためにも、顕彰会の存在が大きい。民間人でここまで調査するという熱意がすばらしい」と感じしていました。

現在「伝かぐや姫」の作品は、市民交流センターに展示しています。



制作に打ち込む朱越氏

**没頭 山本町で銅像づくりに**

大阪から帰った朱越氏は、原鑄造所（山本町）で作品づくりに没頭しました。銅像にかける朱越氏との思い出を、原鑄造所の原寛山さんは「県外での修行を終え、その後山本町に住所を移し作家活動をするなか、祖父の末の妹と結婚し、会社前に住居を構えました。大きな銅像の仕事があれば会社内のアトリエで彫型を行い、小さな作品は自宅アトリエで制作していました。」

私もその影響を受け、子どもの頃から粘土や石膏等の彫刻資材に馴染み、その一連の制作過程を見ることが自然と技術が身についたようです。

銅像原型の制作をしていない時



かつて朱越氏もこの原鑄造所で作品を作っていました



▲展示会で作品集を販売

**展示会に合わせて作品集を発刊**

「織田朱越翁を顕彰する会」は、豊中町を中心に約250人もの会員がいます。

朱越作品の価値を後世の人々に知ってもらいたいと、会員が一つ一つの作品を追跡調査し、作品集にまとめました。

この作品集は（A4サイズ・カラー刷り・64ページ）で、茶碗や土瓶、動物の置物など、個人所蔵の作品もたくさん紹介されています。顕彰会としては、これからの作品の調査を続け、一つでも多くの作品を後世に伝えていくそうです。



代表  
織田邦忠さん

**郷土の名工を後世に残したい**

織田朱越氏の作品は、銅像だけでなく、寺の釣り鐘や神社の狛犬、陶器の置物や茶器など多岐にわたります。近隣だけでなく、岡山県や愛媛県など県外からの依頼も多く、その作品は県内外の広範囲に存在します。その作品を一つ一つ検証し、朱越氏の作品だと確認する作業を地道に続けてきました。県内外の公園や寺院を訪ね、公共の場にある銅像のほとんどを確認しました。その調査の途中で、戦時中の金属供出によって失われたとされる作品についても、原鑄造所に原型が保存されていたことで朱越氏の作品だと確認できました。また、個人所有物の調査も行い、3年有余の年月をかけて調査をしました。その集大成として、調査で確認できた作品を写真に収めた作品集を発刊しました。この作品集を多くの方に見ていただくことで、後世に朱越氏の作品を残し、業績を広く伝承することが出来ればと思います。

▼作品集の問い合わせ

☎62・4436（織田）